

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 加古川

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>令和2年度頃より主に若い世代を対象とした食育を推進しており令和5年度からはHYOGOアサ@プロジェクトに参加し、高校生に対し朝食摂取の必要性について啓発している。地元食材を使った商品開発を通じ高等学校や企業、農林水産振興事務所と繋がりができた。</p> <p>一方、県が平成30年度より実施している、高齢者の食育にはあまり取り組めていない。令和6年2月現在の管内2市2町の高齢化率は、加古川市29.0%、高砂市30.7%、稲美町32.8%、播磨町28.1%と県平均(29.5%)と比べて5%以上高い市町はないが、いずれの市町も高齢化率は年々増加しており、早めの啓発・対策が必要である。</p> <p>また、デジタルツールを活用した情報発信を継続するとともに、効果的な啓発方法を検討し、食に興味関心の薄い人も参加しやすい食環境づくりを進める必要がある。</p>
今年度の推進方策	<p>高齢者の健康づくりに向けた食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者大学においてフレイル予防の普及啓発。 <p>食育推進のための体制整備</p> <ul style="list-style-type: none">・地域住民が利用する場所で、デジタルツールを活用し、食に関する情報発信を実施する。
成果	<ul style="list-style-type: none">・いなみ野学園生562名にフレイル予防啓発ができた。アンケートによりフレイルに対する意識等を把握することができた。・デジタルツールによる啓発：食育月間、食育絵手紙、アサ@をテーマに実施した。昨年度に引き続き管内市町食育担当者とデジタル食育の充実について検討できた。・HYOGOアサ@プロジェクト：農林水産振興事務所と、高校生と企業が考案する商品販売まで連携して取り組めた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">・高齢者の健康づくりは継続実施する。・デジタルツールを活用した食育体制整備に取り組むとともに、年代に応じた啓発方法を検討していく。・HYOGOアサ@プロジェクト等を通じて団体・企業との連携強化を図る。

2 会議の開催状況

実施日時	令和7年2月26日(水) 13:30~16:00
構成員 (団体数 及び人数)	管内各市町食育所管課栄養士 計 3機関・3名
協議内容	<ul style="list-style-type: none">・令和6年度実践活動の報告・各市町の取組状況について情報交換
今後の方策	高齢者の食育や、デジタルツールを活用した食育体制整備を進め、各世代に配慮した情報提供の工夫や、無関心層に対する食育推進に有効な方法を検討していく。

3 食育実践活動の結果

テーマ	1 高齢者の健康づくりに向けた食育の推進 2 デジタルツールを活用した食育推進の体制整備		
対象及び参加者数	① ② ③ いなみ野学園生 562名 ④ 加古川総合庁舎1階かこむ利用者 ※人数は未把握		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	① 令和6年 6月6日(木) 県いなみ野学園	テーマ：高齢者の健康づくり 講話「高齢者の食生活・フレイル予防」	当所栄養士
	② 令和6年 10月8日(火) 県いなみ野学園	テーマ：高齢者の健康づくり 講話「兵庫県の食育計画、高齢者の食育について」	当所栄養士
	③ 令和7年 1月10日(金) 県いなみ野学園	テーマ：高齢者の健康づくり 講話「兵庫の食育と地域づくりについて」	当所栄養士 いずみ会
④ 令和6年10月、 令和7年1月 令和7年3月 加古川総合庁舎内	幅広い年代が利用する「かこむ」(加古川総合庁舎内)付近に設置しているTVモニターを活用し、食や健康に関する情報を発信。 10月：ひょうご食育月間 1月：県絵手紙コンクール 3月：アサ@、朝食摂取啓発	当所栄養士	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに高齢者の食育に取り組めた。学習意欲が高い高齢者(県いなみ野学園生)500名余に対してフレイル対策の啓発ができた。また、学園のコンセプト「学びを地域へ還元する人の育成」に合わせ、地域で食育活動を実践するいずみ会の紹介を行い、管内内外の住民に広く会の周知ができた。 ・デジタツールを活用した食育は昨年度と同回数実施することができた。 ・昨年度に引き続きHYOGOアサ@プロジェクトにおいて若い世代(高校生)に対し朝食摂取の必要性や県民の朝食摂取の現状について講話を実施。高校生が考案する朝食向けの商品開発に役立てることができた。また、地元食材(大麦)を使った商品開発を通じ、農林水産事務所との連携を強化し県民局の商品お披露目会を実施することができた。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎モニターによる啓発回数を増やし、デジタルツールを活用した食育体制整備を図る。 ・高齢者の食育にあたり食生活に対する意識調査等を行い、より実践につながるような講座運営を目指す。 		

※プログラム、資料は別添のとおり。

～令和6年度健やか食育プロジェクト事業～

高齢者の健康づくりと、 デジタルツールを活用した 食育推進の体制整備

加古川健康福祉事務所

背景

- ・令和2年度頃より若い世代を対象とした食育を推進しているが、高齢者に対してあまり取り組めていない。管内のいずれの市町も高齢化率は年々増加しており、早めの啓発・対策が必要である。
- ・デジタルツールを活用した情報発信はデジタル食育を推進するため継続する。効果的な啓発方法を検討し、食育に興味関心の薄い人も参加しやすい食環境づくりを進める必要がある。
- ・朝食摂取の必要性等、食の大切さを広く普及するため、関係団体と幅広く連携・協同し、ネットワークを築きながら推進する必要がある。

取組①

高齢者の健康づくりに向けた食育の推進

- ・県いなみ野学園生、562人に「フレイル」、「高齢期に取り組んでほしい食生活」、「県の食育」等について講話した。



学園のコンセプト「学びを地域へ還元する人の育成」に合わせ、地域で食育活動を実践するいずみ会の紹介も行った。

取組②

食育に関する情報を発信

幅広い年代が利用する「かこむ」(加古川総合庁舎内)付近に設置しているディスプレイを活用し、食育に関する情報を発信。



取組③

若い世代の食育力の強化

公民連携事業「HYOGO アサ@プロジェクト」に参画し、朝食摂取のメリット、県民の現状等を伝え、製品化まで助言、製品 PR に協力した。



東播磨産麦茶を使用したスコーン、クリームパン

食育推進会議

管内各市町栄養士と、フレイル対策やデジタルツールを活用した効果的な食育の推進について情報交換を実施。



今後の方向性

- ・引き続き、高齢者に対する食育やデジタルツールを活用した食育体制整備に取り組む。各世代に合った食育の手法について検討を継続する。
- ・HYOGO アサ@プロジェクト等を通じてつながった団体・企業との連携強化を図る。